



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(3)

【概要】

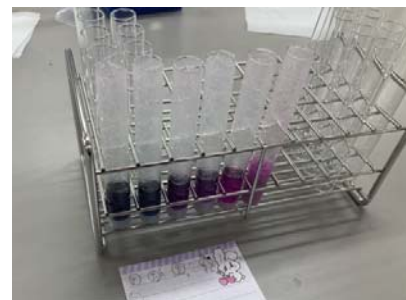
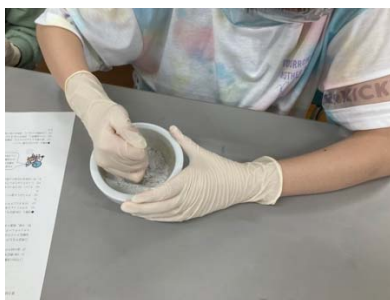
令和 4 年 7 月 8 日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて化学部門 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生らが本年度 3 回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的として行っています。

令和 4 年度第 3 回は 7 月 8 日(金)に、理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに、先進健康科学研究科（理工系）の大学院生及び理工学部理工学科生命化学コースの学部学生が、有機物の汚濁指標である COD（化学的酸素要求量）の測定を通して、水の汚れを調べる理科実験（「COD 測定で水の汚れを調べよう!」）を行いました。

まず、COD の測定に必要な試薬である水酸化ナトリウムや過マンガン酸カリウムを作製しました。子どもたちは保護メガネにゴム手袋を着用して慎重に薬品を混合して調製を終えました。雨水、海水、ため池の水、牛乳などの飲料を千倍に希釈した試料を予め用意していましたが、身近な水として子どもたちは、教育支援センターで飼育している金魚やグッピーの水槽の水、水筒の麦茶、センターのお茶やコーヒーを薄めた試料を自ら進んで調製し、試薬で COD 測定を行っていました。測定結果から、元気がなくて隔離中のグッピーの水槽はポンプで空気が供給されていないためか、ポンプのある元の水槽より COD 値が少し高くなっていることが分かり、水の替え時かもしれないかなと話し合っていました。予定した時間ぎりぎりまで全ての試料を確かめようとする子どもたちの姿勢に、ボランティアで参加した大学生らも感心していました。



「理科実験教室」の様子